

フローチャート Vivaglass CEM

歯 - ブリッジ - 酸化セラミックス - 保持形態のある形成 - 歯肉縁上および歯肉縁 - 保持形態のない形成 - Vivaglass CEM

1 テンポラリーの除去



仮封材を除去します。必要に応じて、支台歯に残存した仮封材をポリッシングブラシとフッ化物およびオイルフリーのクリーニングペーストを使用して除去します(プロキシット F フリー等)。その後、支台歯を水分およびオイルフリーのエアーで乾燥します。

2 修復物の試適



最終修復物を試適します。この時、修復物のシェード、適合、咬合状態を確認します。

3 修復物の前処理



修復物の内面をブラスティングします (IPS e.max ジルキャド の場合:1気圧、酸化アルミナ100。材料メーカーの指示に従って行ってください)。

4 支台歯の防湿と清掃



支台歯をポリッシングブラシと、フッ素およびオイルフリーのクリーニングペーストでクリーニングし (e.g. プロキシット F フリー)、水洗します。その後、水分およびオイルフリーのエアーで乾燥します。この時、乾燥しすぎないように注意してください。

5 Vivaglass CEM (日本未導入) is mixed and applied



The **Vivaglass CEM** (日本未導入) powder and liquid are mixed in a 1:1 ratio. For the cementation of a bridge, the amount of material is increased depending on the number of abutment teeth involved.



The luting material is applied to the restoration with a spatula or brush.

6 修復物の装着と余剰セメントの除去



修復物を装着し、硬化まで軽い一定の圧力で圧接します。



Once the cement has completely set, excess is removed e.g. with a scaler. The setting time is 4-6 minutes.

7 仕上げ



隣接面は、フィニッシャーやポリッシャーで仕上げ研磨を行います。咬頭嵌合位および機能運動時の咬合関係を確認し、必要があれば調整します。修復物マージンを研磨バーもしくはディスクで仕上げ研磨します。（オプトラポル）

8 フッ化物塗布



A thin film of **Fluor Protector** (日本未導入) is applied with a Vivabrush or brush and distributed evenly. The varnish is dried with an air syringe.